

8月の歴史カレンダー

★8月に何が起こったか

<p>1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆水俣奇病罹災者互助会結成 (1957/S32) ◆在宅の胎児性水俣病患者の訪問教育はじまる (1973/S48) ◆水俣病相談事務所設置 (1977/S52) ◆歌手で俳優の上条恒彦さんが水俣病患者の悲哀を歌にしてCDに収録 (2003/H15) 	<p>2日</p> <p>新潟水俣病資料館「新潟県立 環境と人間のふれあい館」開館 (2001/H13)</p>	<p>3日</p> <p>間衛生部、厚生省に原因不明脳炎様患者が多発していると電文報告 (1956/S31)</p>	<p>4日</p> <p>水俣病資料館の語り部5人が土呂久公舎被害者と交流 (宮崎県高千穂町) (2005/H17)</p>	<p>5日</p> <p>新日窒、有機水銀説は、実証性のない推論と反論し、35年3月まで浄化装置を完備すると約束 (1959/S34)</p>	<p>6日</p> <p>市漁協・鮮魚小売商組合とともに水俣工場にデモ。第一次漁民紛争はじまる①漁業補償一億円②ヘッドロの完全除去③浄化装置設置を要求 (1959/S34)</p>	<p>7日</p> <p>水俣市、市立病院から茂道で新患者発生の連絡を受け現地調査を実施 (1958/S33)</p>
<p>8日</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆環境庁、行政不服審査で九人について、県の棄却処分取消の裁決を行う (1971/S46) ◆熊本学園大学の「水俣学現地研究センター」が水俣にオープン (2005/H17) 	<p>9日</p>	<p>10日</p> <p>NPOみなまたが「新たにわかってきた水俣病のはなし」を発行 (2005/H15)</p>	<p>11日</p>	<p>12日</p>	<p>13日</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆熊大勝木司馬之助教授、徳巨晴比古助教授、水俣現地で初めて患者診察 (1956/S31) ◆伊藤蓮雄氏死去 (水俣病公式発見当時の水俣保健所長) (1991/H3) 	<p>14日</p> <p>水俣市奇病対策委員会、熊大に原因究明を依頼 (1956/S31)</p>
<p>15日</p> <p>市議会奇病対策特別協議会、水俣湾一帯の漁獲、食用自粛を推進すると決定。市奇病対策委員会も水俣湾の魚をたべないよう地元へ自粛を要望、患者宅などを視察 (1958/S33)</p>	<p>16日</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆熊本県、厚生省に対し「水俣湾内産の魚介類に食品衛生法を適用すること」の可否について照会 (1957/S32) ◆水俣病第二次訴訟控訴審判決、原告4人勝訴、1人棄却。(8・30確定) (1985/S60) 	<p>17日</p> <p>市漁協、新日窒の交渉難航し、怒った漁民ら交渉会場に乱入。漁民、工場側、警官に負傷者多数出る (1959/S34)</p>	<p>18日</p> <p>棄却者9人、厚生大臣に行政不服審査請求 (1970/S45)</p>	<p>19日</p> <p>「ビーフス・プラン21世紀」が6日間の日程で始まる。アジア太平洋地区の31カ国から市民運動家約600人が参加 (1989/H1)</p>	<p>20日</p> <p>管木電氣、日本カーハイト商会と合併し日本窒素肥料株式会社発足。資本金100万円 (1908/M41)</p>	<p>21日</p> <p>県は、新患者の発生に伴い、県漁連関係漁協等へ水俣湾内漁獲の操業厳禁を指導通達 (1958/S33)</p>
<p>22日</p> <p>市漁協、新日窒により生ずる害毒に異議を申し立てないことを条件に、50万円借受けの覚書を結び (1951/S26)</p>	<p>23日</p> <p>環境庁、調整案の説明会を水俣市で開催 (1995/H7)</p>	<p>24日</p> <p>熊大医学部、「水俣病研究班」を組織。 (1956/S31)</p>	<p>25日</p>	<p>26日</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆県、水俣市漁協と水俣湾の水銀汚染魚一斉捕獲 (1998/S63) ◆水俣湾の指定魚を10種から9種に減少 (1993/H5) 	<p>27日</p>	<p>28日</p> <p>石牟礼道子原作の新作能「不知火」が水俣湾埋め立て地で奉納公演 (2004/H16)</p>
<p>29日</p> <p>水俣市漁協・新日窒、水俣市長らの漁業補償あっせん案を受諾調印 (1959/S34)</p>	<p>30日</p> <p>水俣市隔離病舎に収容中の患者4人と月浦地区の患者1人、医療費負担のない「学用患者」として熊大医学部付属病院藤崎台分院に入院 (1956/S31)</p>	<p>31日</p>	<p>日付不明</p> <p>熊大入鹿山目朗教授ら、(アセトアルデヒド)酢酸工場の水銀滓と水俣湾のアサリから塩化メチル水銀を抽出したと論文で発表 (1962/S37)</p>			